

防災に関して市民の皆様にお伝えしたいこと

昨年は、9月6日に最大震度7を観測した北海道胆振東部地震が発生し、全道的な停電になりました。旭川市は震度が4で地震による被害はありませんでしたが、市内も停電が2日間続くなど、市民生活に大きな影響を与えました。

7月3日には、北海道付近に停滞した前線に向かって暖かく湿った空気が流入し、旭川市を中心に大雨となりペーパン川が決壊しました。大雨による河川水位の上昇に伴う内水排除と、マンホールから道路に水があふれたためポンプで排水作業を行いました。東旭川地区、忠和地区、新星・永山地区などで床上浸水・床下浸水が発生しました。

この平成30年7月豪雨では、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、岡山県、広島県、愛媛県等で河川の氾濫や土砂災害が相次ぎ、豪雨災害では平成最大の200人を超える死者・行方不明者が発生するなど、各地で甚大な被害が発生しました。

国（内閣府）は、平成30年7月豪雨で様々な形態により甚大な被害が発生したことを受け、関係省庁における検討とも連携し避難対策の強化について議論し、これまでの「行政主導の取組を改善することにより防災対策を強化する」という方向性を根本的に見直し、住民が「自らの命は自らが守る」意識を持って自らの判断で避難行動をとり、行政はそれを全力で支援するという、住民主体の取組強化による防災意識の高い社会の構築に向けた報告が平成30年12月にまとめられました。

旭川市は、日頃から避難経路等を確認していただくため、概ね1,000年に1回起こり得る大雨を想定した洪水ハザードマップを作成し、平成31年3月に全世帯に配布しました。また、避難時の対応などを家族で確認できるように、「旭川市くらしの便利帳」にも洪水ハザードマップを載せるほか、防災ガイド「いざという時のために」を載せています。

【講習内容（案）】～防災安全部防災課担当

1 皆さんは、災害への備えをしていますか？…「災害への備え」って何？

災害への備えとは、災害による被害を減らすために、日頃から努力することです。

2 自助と共助とは

「自助」は自分の身は自分で守ること、「共助」は地域や身近にいる人どうしが助け合うことです。まず自分自身が無事でなければなりません。「自助」があつての「共助」です。

3 地域の災害リスクを知ろう

地震、水害や土砂災害の危険には地域差があります。地域の災害リスクを知りましょう。

4 災害に備えよう

地域にどのような災害リスクがあるのかを知り、その災害による被害を軽減するための努力（備え）をしましょう。自分の身は自分で守ります。無事なら、助け合いましょう。

（裏面に、国の報告書の抜粋を載せています。）

中央防災会議防災対策実行会議の「平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキング・グループ」がまとめた「平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について（報告）」からの抜粋です。

今回の豪雨災害は、行政主導の避難対策の限界を明らかなものとし、国民一人ひとりが主体的に行動しなければ命を守ることは難しいということを我々に突き付けた。行政には、引き続き、避難対策の強化に向け全力で取り組むことを求めるが、加えて、国民の皆様は、下記のことを強く求める。

＜国民の皆さんへ ～大事な命が失われる前に～＞

- ・自然災害は、決して他人ごとではありません。「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。
- ・気象現象は今後更に激甚化し、いつ、どこで災害が発生してもおかしくありません。
- ・行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。自然の脅威が間近に迫っているとき、行政が一人ひとりを助けに行くことはできません。
- ・行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。
- ・避難するかしないか、最後は「あなた」の判断です。皆さんの命は皆さん自身で守ってください。
- ・まだ大丈夫だろうと思って亡くなった方がいたかもしれません。河川の氾濫や土砂災害が発生してからではもう手遅れです。「今、逃げなければ自分や大事な人の命が失われる」との意識を忘れないでください。
- ・命を失わないために、災害に関心を持ってください。
 - あなたの家は洪水や土砂災害等の危険性は全くないですか？
 - 危険が迫ってきたとき、どのような情報を利用し、どこへ、どうやって逃げますか？
- ・「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、一人では避難が難しい方の援助など、地域の皆さんで助け合いましょう。行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。